

## 第3学年総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成18年11月22日（水）5校時  
児 童 3年1組 男18名 女11名 計29名  
指導者 小 國 博 文

1 単元名 大槌の昔を調べよう ～ おじいちゃんおばあちゃんは宝物 ～

2 単元について

(1) 児童について

児童は、前単元の「 博士になろう」において、自分の興味・関心に基づいた課題を設定し、課題設定・計画立案・調査活動・調査のまとめといった一連の探究活動を経験してきた。そして、本単元の「大槌の昔を調べよう」において、グループ毎に「大槌の昔話」、「大槌孫八郎」、「大槌の地名」、「三陸大津波」、「大槌弁」、「昔の人の食べ物」、「大槌祭」、「戦後の暮らし」と8つの課題を設定し、前単元で身に付けた解決の方法を生かしながら、探究活動に意欲的に取り組んでいる。

本単元においては、主な活動の対象が高齢者となる。そこで、児童と高齢者との関わりの実態をみると、学校生活においてこれまで積極的に高齢者と関わってきた経験はなく、家族以外の高齢者と関わるのが初めてという児童が多い。また、家庭環境においては、学級の中で核家族の家庭が多く、65歳以上の高齢者と同居している児童は少ない。そのため、日常生活において、高齢者を通じて、大槌に代々伝わる風習を知ることや高齢者が抱えている不安や問題点に気付くこと、高齢者の抱く願いを知ることなどは、なかなかできない状況にある。

(2) 題材について

本単元は、郷土「大槌」の昔について、単元の導入に行われる共通体験を通して抱いた思いや考えに基づき、児童一人一人が追究課題を設定し、主体的に探究していく学習である。この学習活動は、高齢者の方を主な活動対象として課題を解決していくことが予想されるため、当然のことながら高齢者とのコミュニケーション能力が必要とされる。そこで、児童と高齢者がよい関係を築けるような活動を探究活動の過程に組み入れ、お互いが名前を呼び合い、自然な交流ができるようにしていくことが求められる。

題材「おじいちゃんおばあちゃんは宝物」は、高齢者を理解し、自然に高齢者との望ましい交流ができることをねらって計画した学習活動である。本題材は、児童の探究活動を支え、これまで描いていた高齢者像を改め、高齢者に対する尊敬の念を今まで以上に抱くきっかけになる題材であると考えられる。本題材によって、児童が高齢者と接し、自分の課題に迫る学習活動を続けていく中で、課題解決以外にも様々な知識を身に付け、高齢者の方から知恵を学び、これからの生き方により影響を与える可能性を持つものと期待できる。

(3) 人権教育の観点から

人権理解にかかわって

現在、日本社会は少子高齢化が進み、全国では高齢化率が19.5%、岩手県の状況を見ると24.5%となっている。ここ大槌町にあっても同様の傾向にあり、今や4人に1人が65歳以上の高齢者といった状況である。このような現状の中、私たちは、ややもすると、高齢者に対して、自

立した生活が困難であり、他者からの援助を受けなくては生活が難しい方々と一方的な見方を  
してしまい、体力面で衰えていることや体が不自由であるなど、負の印象を持つ傾向にある。  
また、「老いては子に従え」という言葉にあるように、年をとったならば必然的に社会の第一線  
から退かなくてはならないような風潮がみられることさえある。

児童の意識においては、これまでに行った道徳や学級活動などの学習で、読み物資料に基づ  
いて「困っている人を助けてあげたい。」とか「敬老の日には、自分ができるこんなことをして  
あげたい。」など、その出来事の中の問題点について自分なりの解決策を考えたり、自分にでき  
る行動を実行しようとしたりしてきた。しかし、実際に高齢者に直接接して、当事者の気持ち  
を聞いたり、高齢者が抱える問題点について一緒に考えて理解したりする経験は無かった。

そこで、本単元では、これまでの高齢者に対する偏った見方や考え方を改め、自分も高齢者  
も同じ人間として尊重し合い、互いの立場を理解し、助け合って生きていくことの大切さに気  
付かせていく必要があると考える。

育てたい力について

「思考力・判断力」にかかわって

児童は、これまでに同世代の仲間との交流はあるものの、60代以上の高齢者（家族以外）と  
の交流は少ない、そのため、高齢者の立場に立って物事を考えることは難しく、常に、「自分た  
ちができることやできないこと」を判断の基準にしてしまいがちである。したがって、今、高  
齢者が望んでいることは何か、高齢者に対して自分がどのように行動することが望ましいのか  
考え、判断できる力を身に付けさせたいと考える。

「受容力」にかかわって

児童と高齢者との交流活動の随所にみることができると予想される高齢者の方々の  
考えのよさを児童に気付かせ、これまで以上に高齢者に対する尊敬の念を抱かせるとともに、  
児童に新たな見方や考え方が芽生えたり、相手意識を高めたりできるようにしていく。

「表現力・行動力」にかかわって

高齢者との交流活動や学級の話し合いを経験することで、相手に応じた話し方や接し方を考  
えて、主体的に行動できるようにしていく。また、本学習活動をきっかけとして、日常生活の  
中でも、地域に住む高齢者に対して進んであいさつを交わしたり、協力できることを主体的に  
行う行動力を身に付けさせたいと考える。

#### (4) 指導にあたって

前段でも述べたように、本学級の児童は、日常、高齢者の方々と接する機会が少ない。その  
ため、高齢者の立場に立って物事を考えることがなかなかできず、本単元の調査活動を進める  
過程でも、つい自分本位に結論付けて物事を考え、行動してしまうと推測される。したがって、  
次の手順で活動を計画していくことにより、児童の意識を育てていきたいと考える。

児童と高齢者の方々とが自然にうち解けあう交流の場「あったか交流会」を設ける。

( 出会いの交流 )

児童が、高齢者の方々のすばらしさを目のあたりにする活動を計画する。( ふれ合いの活動 )

児童が、高齢者の身体的問題点を疑似体験できる活動を計画する。( わかり合うための体験 )

いくつかの活動で芽生えた高齢者に対する思いを話し合う。( 支え合うための学習 )

高齢者の立場を考慮した児童立案の交流会を実行する。( 分かち合うための交流 )

また、交流を通して芽生えた高齢者に対する意識の高まりを実感させるため、児童自身が活  
動で感じた思いを学習後に記録させていきたい。

### 3 単元の目標

高齢者との世代間交流を通して、高齢者に対して尊敬の念を抱き、高齢者を大切にしていこう、共に生きようという意識を高め、今後の学校生活や地域社会の中で助け合うことができるようにする。

### 4 単元指導計画（13時間）

月	学 習 内 容	評 価 規 準		
		課題を見つける力	課題を解決する力	他者と関わる力
9	1 出会う（2時間） 自己紹介 レクリエーション 活動のふり返し	学習活動を把握し、活動に対して自分の考えをもつことができる。	高齢者の方々の名前を知り、あったか交流会をする中でうち解け合うことができる。	高齢者の方々と進んで関わろうとする。
	2 ふれ合う（3時間） 昔の生活の疑似体験 （豆腐づくり等） 活動のふり返し	体験の内容を理解し、体験後に、これからの生活に生かせるものは何かを見いだせる。	友達や高齢者の考えや行動などと比べながら、よりよい方法で課題を解決できる。	昔の生活を疑似体験する中で、高齢者の方々と親密に関わることができる。
11	3 わかり合う（2時間） シニア体験 （身体的な負荷の体験） 活動のふり返し	体験の内容を理解し、高齢者の抱える身体的問題点に気付く。	シニア体験を通して、高齢者の立場を理解することができる。	シニア体験を進んで行おうとしている。
11	4 支え合う（2時間） 話し合い活動  〔 思いの共有 （本時） 〕 活動計画づくり	話し合いの中で、友達の考えのよさを感じ、自分の考えをもつことができる。	友達との話し合いを通して、今後のあったか交流会を計画することができる。	進んで話し合い活動を行っている。 友達の考えを認め、自分の意見の調整をしている。
1	5 分かち合う（2時間） 児童の計画した交流会 《 予想される活動 》 ・みず木だんごづくり ・室内グランドゴルフ大会 ・音楽発表会 活動のふり返し	あったか交流会以外にも、今後に自分から進んで行動できることを見いだすことができる。	前時で抱いた考えを行動に移そうとしている。	高齢者の立場を考えながら、相手を尊重した行動ができる

5 本時の指導

(1) 目標

過去のあったか交流会を振り返り、高齢者の立場を十分に考慮した新たな活動を考えることができる。

(2) 人権教育の観点から

高齢者理解を深めるために、本時は、これまでのあったか交流会を通して芽生えてきた高齢者に対しての新たな見方や考え方を児童に実感させ、今後の活動を計画する際にも、常に高齢者の立場を念頭に置いて考える大切さを意識づけていきたい。話し合い活動において、高齢者の本当の願いに寄り添わせ、児童が高齢者の立場を今まで以上に尊重していくようにさせたいと考える。

(3) 展開(10/13)

段階	学習活動	予想される児童の反応 指導上の留意点・支援( )	評価( ) 人権教育の観点( )
つかむ 5分	<p><b>1 学習内容をつかむ。</b> ・これまでの活動を想起する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あったか交流会で行った活動 昔遊び体験 豆腐づくりの体験</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おじいさんおばあさん方の思いを知って、自分たちの力であったか交流会を計画しよう</p> </div>	<p>活動中の写真を掲示して、想起に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「昔の遊び」がとっても楽しかった。</li> <li>・おじいさん、おばあさん方の名前をたくさん覚えることができた。</li> <li>・豆腐作りを教わった。売っている物より味が濃く、おいしい豆腐を作れるなんて、すごいなあ。</li> <li>・(シニア体験をして) あんなに体が思うように動かないなんて知らなかった活動中の児童の気付きのよさを取り上げ、本時の学習への期待感を高める。</li> </ul>	<p>友達の活動中の思いに共感する。 &lt;受容力&gt;</p> <p>学習課題が把握できたか。(挙手)</p>
考える	<p><b>2 交流の中で自分たちが高齢者の方々に対して心がけてきたことを発表する。</b></p> <p>・高齢者の方からのメッセージを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹馬作りで、竹が動かないようにしっかり支えた。(思いやり)</li> <li>・疲れないように椅子を用意した。</li> <li>・自分ができる鍋洗いや道具洗いをした</li> <li>・～先生と名前と呼んできた。(尊敬)</li> <li>・どんなことを手伝えばよいか進んで聞いた。</li> <li>・「ありがとうございました。」とお礼を言った。 (感謝)</li> </ul> <p>児童の発言の中から、高齢者の方を意識した言葉を取り上げて板書し、心がけてきたことを明確に示す。</p> <p>3年生との再会を望んでいるという高齢者の方のメッセージを読み、学習活</p>	<p>高齢者を尊重して行動してきたことを実感させる。 &lt;思考力・判断力&gt;</p>

<p>考 え る</p>	<p>3 次回のあったか交流会についての自分の考えをもつ。</p> <p><b>自ら考える場</b></p>	<p>動への意欲の喚起に役立てるとともに、高齢者の方々の願いや思いを知って、「今後、自分たちがどのようなことに心がけていくべきか」ということについても明確にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔からやってきた年中行事（みず木団子作り等）をしてみたい。</li> </ul> <p>昔から伝えられてきたことをもっと知りたいから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽発表会に招待したい。</li> </ul> <p>自分達の演奏を聴いていただいて、おじいさんおばあさん達に喜んでもらいたいから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(老人クラブの活動)を一緒にしてみたい</li> </ul> <p>おじいさんおばあさんともっと仲良くなれると思うから一緒に(グランドゴルフ)をやってみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔遊びをもう一度してみたい。</li> </ul> <p>楽しかったし、おじいさんおばあさんたちの「さすがだ」と思う所もみられたから。</p> <p>計画シートを用意し、児童の考え(活動内容や高齢者の方への思い)を明確にさせる。</p>	<p>高齢者の方を念頭に置いた独自の案をもつことができるようにする。 &lt;思考力・判断力&gt;</p>
<p>28 分</p>	<p>4 自分で考えたあったか交流会について、友達の考えと比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班で意見を出し合い、交流する。</li> </ul> <p><b>互いに認め合う場</b></p>	<p>自分の考えの根拠(理由)を明確にさせ、お互いが高齢者の方の思いをどのように受け止めたのか十分に交流させる</p> <p>班ごとのグループ交流を取り入れ、全員に発表の機会を保障する。</p>	<p>自分の考えをもつことができたか。(観察・シート)</p> <p>友達の考えと比べながら自分の考えを伝えることができるようにする。 &lt;表現力・行動力&gt;</p>
<p>深 め る</p>	<p>5 全体の考えを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の交流の様子をみて、教師が板書で整理し、全体</li> </ul>	<p>児童が発表したこと(考える段階4のような内容)を板書で整理する。同様の意見も認め、児童の意見のあり</p>	<p>友達と進んで話し合おうとしているか。</p>

6分	の交流をする。	のままを受け入れる。	(観察)
まとめ る 6分	<p><b>6 今日の学習をまとめる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書を確認しながら、本時のまとめをする。</li> </ul> <p><b>学習を振り返る場</b></p> <p><b>7 今日の学習をふりかえる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対してふり返るとともに、活動の中での友達とのかかわり(友達の活躍等)についても発表し合う。</li> </ul>	<p>児童が課題の達成感を味わうことができるようにする。</p> <p>課題の達成にとどまらず、友達から得られた情報や友達とのかかわりについてまでふり返らせる。</p>	<p>今日の課題が達成できたか。(挙手)</p> <p>友達との学び合いから得られた情報や友達への感謝の気持ちが伝えられるようにする。&lt;受容力&gt;</p>

(4) 評価

過去のあったか交流会を振り返り、高齢者の立場を十分に考慮した新たな活動を考えることができたか。

6 板書計画

